清水高原(きよみずこうげん)歳時記（長野県道完走編）
≪長野県山形村≫(やまがたむら)

第１２集

（長野県道１号線～508 号線）

NO.78　群馬県道・長野県道 92 号

（長野県道・群馬県道 92 号走破）

NO.79　飯山線沿線を走りました（飯山市・野沢温泉村・栄村）

（群馬県道 408 号走破）（長野県道 116 号走破）（長野県道 410 号走破）

NO.80　かんてんぱぱダイエット

（長野県道 315 号走破）（長野県道 319・320・321 号走破）（長野県道 278 号走破）

NO.81　南アルプススーパー林道探索（山梨県側から開始）

NO.82　南アルプススーパー林道探索（長野県側から開始）

（長野県道 212 号走破）

NO.83　杖突峠から入笠山ふもとまで寄り道し高遠ローズガーデンに

（長野県道 490 号走破）（長野県道 211 号走破）

NO.84　開田高原木曽馬の里

（長野県道 20 号走破）

清水高原(きよみずこうげん)歳時記（長野県道完走編）　NO　道７８

≪長野県山形村≫(やまがたむら)　2024.5.14

群馬県道・長野県道 92 号線

澤田　繁　著

（群馬県道・長野県道 92 号走破）

2024.5.14 群馬県から碓氷峠を目指しました。松本インターで高速に乗り、上信越道を通り、甘楽スマートインターで降りて、国道 254 号（東京―松本）バイパスにある「めんたいパーク群馬」に行きました。娘と女房にその日に作ためんたいこを買い、昼食にめんたいスパゲッティーを始めて食べました。このからさを苦手としていたのだが、老化に伴い、からさの感じがうすらいだ感じがした。

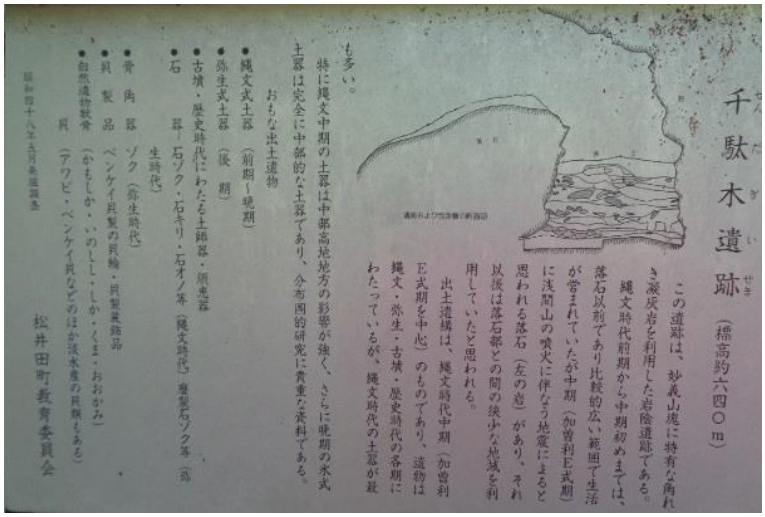
ここから、まだ完走していない群馬県側の県道 92 号を目指します。福島跨線橋北交差点から国道 18 号線に向かう。国道 18 号線（高崎―長野―上越）に出て、横川駅近くまで進み、鉄道文化むら南交差点を右折（県道 92 号）し、鉄道文化むら（休館日）横を通り県道 222 号線との交点の三差路に着いた（県道 92 号起点）。碓氷関所跡を通って、国道 18 号線との三差路に出、200m 程国道 18 号線と重複して走り。左折して 92 号線単独の道を走り、すぐに碓氷バイパスと交わりしばらく県道 92 号線と重複したバイパスを通り、いよいよバイパスと分岐し単独で県道 92 号線（松井田軽井沢線）を走り出しました。

国道 254 号線から、群馬県道 197 号線・10 号線を使い国道 18 号線に行ったが、桑畑が今でもあったし、桑原という地区もあった。雷が鳴ると**「くわばらくわばら」**と言って難を避けた言葉を思い出したが、いわれは**桑原の地名**だがここではないようだ。国道 18 号線の信号（岩井）を左折したが、直進して 400m 程で板鼻宿（中山道・江戸から 14 番目の宿場）の信号になる。安中宿（15 番目）・松井田宿（16 番目/標高約 300m）を過ぎ、横川駅方面に向かいました。

横川は、昔なつかしい国道 18 号（今は碓氷バイパスと併用されている）を下り、訪れた。途中「めがね橋」を見学し、坂本宿（17 番目）を通り、横川の駅前をうろつき、「横川・峠の釜めし」を買い食べました。今回は、「鉄道文化むら」を見学しようと思いましたが、休館日でした。横川駅から軽井沢駅までは、かって信

越線が通っていたが、長野新幹線が出来た時に廃線（1997 年）とされた。この区間、鉄道を通すには難所であった。横川駅周辺は標高 400m で碓氷峠が 1000m で急な登りになる。国道 18 号線のカーブの連続を見ても、大変さがわかる。この区間、軽井沢駅と横川駅の停車時間が長いので、学校で習った「アプト式」でなにか作業しているなあくらいしか思わなかった。この時、既にアプト式は廃止（1963 年）されて「電化による粘着運転」が行われていた。その後、廃線になる前に一度、多分その方式に必要な電気機関車（複数台）を取り外す作業見た事があった。

道は、沢沿いに 2 車線道路であったが、集落がある地域を抜けると、沢から外れ山道に入り、狭い道があったり、広くなったりした。集落を過ぎた後に、遺跡の看板があり、車を止めて周囲を散策した。看板によれば、千駄木（せんだぎ）遺跡（標高 640m）・岩陰遺跡・縄文前期から弥生・古墳・歴史時代に渡る。縄文中期に浅間山の噴火に伴う地震により落石が生じて、その隙間を利用していたとの記述もあり、散策の目標になった。



千駄木遺跡（標高約六四〇m）

この遺跡は、妙義山塊に特有な角れき凝灰岩を利用した岩陰遺跡である。縄文時代前期から中期初めまでは、落石以前であり比較的広い範囲で生活が営まれていたが中期（加曽利E式期）に浅間山の噴火に伴なう地震によると思われる落石（左の図）があり、それ以後は落石部との間の狭少な地域を利用していたと思われる。

出土遺構は、縄文時代中期（加曽利E式期を中心）のものであり、遺物は縄文・弥生・古墳・歴史時代の各期にわたっているが、縄文時代の土器が最も多い。

特に縄文中期の土器は中部高地地方の影響が強く、さらに晩期の水式土器は完全に中部的な土器であり、今后周的研究に貴重な資料である。

おもな出土遺物

- 縄文式土器（前期～晩期）
- 弥生式土器（後期）
- 古墳・歴史時代にわたる土師器・須恵器
- 石器 石ブク・石キリ・石オノ等（縄文時代）重製石ブク等（弥生時代）
- 骨角器 ゾク（弥生時代）
- 貝製品 ペンケイ貝製の貝輪・貝製装飾品（かもしか・いのしし・しか・くま・おおかみ）
- 自然遺物獣骨 貝（アワビ・ペンケイ貝などのほか淡水産の貝類もある）

昭和四十八年五月発掘調査

松井田町教育委員会

山道を走っていると、開けた場所に出た、碓氷軽井沢インターから見える、格好の良い岩だと思い、車を止めて写真を撮りました。ようやく登り切り、インターのそばまできました。信号が有、左折すると高速道路に、右折すると県道 92 号線が継続するが、今日は右折して、高速に乗り、途中娘の家により帰った。

2023.1.10「めんたいパーク群馬」に行き。下仁田 IC より上信越道で碓氷軽井沢 IC（標高 800m）から軽井沢方面に県道 92 号線を走る。右側に「高岩」が見える大きいカーブの数個ある登り道を峠の頂上まで登ると長野県に入る。長野県に入り緩やかな下りを 1km 程走ると、県道 43 号線と交わり、県道 92 号線はここで終了となる。この日は、南軽井沢交差点で国道 18 号を走り、佐久 IC から途中娘の家により帰宅した（県道 92 号線走破）。

【付録】

アプト式（鉄道）・信越線の横川から軽井沢間の急な登りに採用された方式。通常はレールと車輪との摩擦で推進力をだすが、急な坂の場合、２～３枚のラックレールを歯形をずらして設置し、機関車につけたピニオンを回転させ進む方式。

スイッチバック（鉄道）・篠ノ井線の姨捨駅から冠着トンネルまでの急な登りに採用された方式。急斜面を登るため複数の鋭角カーブを有するジグザグに敷かれた線路。今でも各駅停車に乗ると姨捨駅でスイッチバックしてくれる。

歳時記ホームはこちら　http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm

清水高原(きよみずこうげん)歳時記（長野県道完走編）　　NO　道７９

≪長野県山形村≫(やまがたむら)　2024.5.21
飯山線沿線を走りました（飯山市・野沢温泉村・栄村）

澤田　繁　著

（長野県道 408 号走破）（長野県道 116 号走破）（長野県道 410 号走破）

2024.5.21**「ねまがりだけ」**を買いに、松本インターから豊田飯山インターまで高速で行き、国道 117 号線を走り、道の駅花の駅千曲川の横にあるＡ・コープみゆき店に行きました。店内を見渡したが見当たらなかったので、横に移動し花の駅千曲川の店員さんに聞いたら、もう売り切れたそうです。行ったのが午後だったので仕方ありませんでした。

第二の目的は、栄村で**「トマトジュース」**を買う事でした。国道 117 号を千曲川左岸を北上していきました。常盤大橋を渡り、千曲川右岸に移りました。この地域「旧瑞穂村（瑞穂・瑞穂豊(みずほとよ)・前坂)」は、現在は飯山市である。標高 317m の湯滝橋横を通り県道 353 号線が国道 117 号線と交わるあたりから野沢温泉村に入る。この千曲川右岸の地域は、「旧市川村（平林・虫生・七ケ巻・東大滝)」が昭和 31 年に合併して野沢温泉村になった地域である。この地域の真中あたりにあるのが「道の駅野沢温泉」で 2019 年夏にオープンしたようで、前に一度駐車場までは入った記憶がある。今日は、立ち寄って農産物を売っている所に行きました。100%「ねまがりだけ」はないだろうと思っていましたが、女房が最後の一つを買って帰ってきました、驚きの一瞬でした。東大滝大橋を渡って「旧水内村（豊栄・北信)」に入る、昭和 31 年に堺村と合併し栄村となった地域を走る。横倉・青倉トンネルを抜け、国道 117 号からちょっと入った森宮野原駅に到着した。ここが第二の目的の「トマトジュース」を前買った所でしたが、外から見て暗くてやっているかどうか不安でしたが、駅舎に入り横の「森宮野原交流館」に入り、声を掛けたらおばさんが出てきたので、買うことが出来ました。おばさんに、途中中条温泉トマトの国に行って見たが今でもやっているか聞いてみましたら、地元の人が行く温泉施設で、トマトは前に栄村で多く栽培していたことがあり、駅周辺の商店街にも、トマトをモチーフにした看板が目立つのは、昔のなごりだと説明してくれました。又駅舎の側に立つ、積雪７ｍ８５ｃｍの柱を見に行きましたが、この高さいつ

見てもすごい（写真は 2022 年 6 月 14 日撮影）。

この日は、この後の予定をたてていなかった。そのまま北に進み、新潟県津南町・十日町まで行き、そろそろ帰った方がいいと思い、十日町から国道 253 号線（南魚沼市から上越市の路線）に入り、上越市の国道 8 号線（新潟市から京都市までの路線）まで行き、「富寿し」で夕食を済ませ、上越インターから帰宅した。途中「上越鉄道ほくほく線のまつだい駅」前で車を止め休憩した。以前柏崎より来たところで、棚田や城跡などを散策したことを思い出した。地名の「松代（まつだい）」が、松代町（現在の長野市松代）と同じで呼び方が違うのが気になって、以前に調べたとき、松代村⇒松代町（1954 年）⇒十日町（2005 年）と合併したとあった。

2021.5.11 野沢温泉に寄った帰りに、県道 353 号線を走り**上境駅**まで来ました。県道 408 号線を走破のため、この日は上境駅から南に県道 408 号線の起点（終点）まで走りました。**県道 408 号線**（箕作飯山線）は、千曲川に沿って国道 117 号線と県道 308 号線が両岸（右岸・左岸）にあります。上境駅は左岸にあり、南の起点までは左岸を維持しており、かつ飯山線とも平行して走る路線であった。上境駅は現在、飯山市だが、昭和 31 年までは、岡山村（照岡・一山）の停車場であった。上境駅の 400m 程南からは、旧太田村（常郷・豊田）の常郷地区に入る。常郷の県道 408 号線は、川と山に囲まれた結構狭いエリアがほとんどだった。開けた所に出るとすぐに戸狩野沢温泉駅周辺に到達した、この辺では、結構目立つ建物でした。駅は、旧常盤村（常盤・照里・大池・小沼）の照岡地区になる。駅から 200m 程で踏切があり、踏切を渡ってすぐ県道 95 号線（上越飯山線）と交わる、ここの三差路が県道 408 号の終点（起点）となる。

2022.6.14 残りの 408 号線を走りに、**上境駅**に到着。今度は北に向かって進む、千曲川の左岸道路は、山と川に挟まれ狭いところが続く。飯山線とも平行しており、上桑名川駅付近から 2km は幅のある平地があり、人家も多数あった。市川橋から来る国道 403 号（新潟市から松本市までの路線）線と 1.8km 程重複している区間を抜け、さくら広場（桜の名所みたい）の横を通り進むと**「ダムの取水路」**が真横に通っている場所に来た。水量が多いことと、すぐ横ということと、人生で初めてダムからの送水路を見た気がすることで新鮮味のある感じがした。西大滝ダムから、およそ約 16km 下流にある信濃川発電所まで送水しているようだ。送水路横から洞門の道（400m あった）になり、洞門すきまから「東大滝橋」が見えてきた。国道 117 号線と県道 408 号線は、右岸左岸の交代と、飯山線沿線の交代がある橋である。

県道 408 号線は、東大滝橋を渡る時、飯山方面に戻る方向になる。橋から野沢温泉村東大滝地区に入り、右岸を走る。しばらく右岸を走れるが、山が千曲川に迫りこの区間 800m くらいが右岸に道がないところになっている。明石大橋の手前に栄村の案内があった、ここから栄村に入りました。箕作平滝大橋で右岸に戻り、すぐに県道 502 号（奥志賀公園栄線）の始点と交わり、さらに行くと路線名である箕作集落に入りました。ほとんど県道 408 号線はここで終点と思われたが、国道 117 号線との連絡のため、千曲川を渡り、国道 117 号線の横倉トンネル南口手前で合流した（県道 408 号線走破）。

この日は、森宮野原駅まで行き、栄村を少し回り横倉駅に着いた。国道 117 号線に出て飯山方面に、東大滝橋手前を右にまわり、ついさっき走った県道 408 号線を飯山方面に、桜ひろばから 1km 程行くと、国道 403 号線と交わり（三差路）、右折して国道 403 号線を新潟方面に行きました。国道 403 号線に入ると、すぐに山道になり、標高差 200m（標高 300m から 500m に）を一気に登る道を過ぎると、田んぼがある丘が現れた。田んぼがなくなり再び山道に入る。その先にある道が、私が長野県内で唯一走っていない国道となる（機会あるごといくが工事などに阻まれてしまっている）。田んぼのある所まで戻って来て、国道 403 号線とは分かれ、**みゆきのライン**を走る事になった。このラインに沿って、旧岡山村（照**岡・一山**）の中心地があった気がする。田んぼ（段々たんぼ）広がり、いくつかの谷を越えての道だった。一山で県道 95 号線と交わりみゆきのラインは終了した。

県道 95 号線とみゆきのラインの交点（三差路）から、100m 飯山方面に向かうと、県道 116 号線（上境温井線）の始まる（終点）交差点があり、左折し上境駅に向かう。標高差 170m（標高 500m から 330m に）をゆっくり下ると上境駅に到達した（県道 116 号走破）。

上境駅から湯滝橋を渡り、国道 117 号線を飯山方面に走り、柏尾橋東交差点を右折し、この交差点から柏尾橋を渡って「戸狩野沢温泉駅」までを県道 410 号線（柏尾戸狩線）を完走するため往復した。410 号線はこの交差点から国道 117 号線と 1.6km 重複しており、1.6km 先を左折して 1.2km 程を走り、県道 38 号線と交差し完走出来ました（県道 410 号走破）。この日は飯山市から中野市にいき中野 IC から帰宅。

清水高原(きよみずこうげん)歳時記（長野県道完走編）　NO　道８０

≪長野県山形村≫(やまがたむら)　2024.5.28

かんてんぱぱダイエット

澤田　繁　著

（長野県道 315 号走破）（長野県道 319・320・321 号走破）（長野県道 278 号走破）

2024.5.28この日は雨降り、前の日に「ダイエット3ヶ月」を決めた私、女房の力を借りて食事から始める事にしました。昼食は、前に「かんてんぱぱガーデン」買ってあった「ところてんのもと」をつかい、昼は「ところてん」のみにする事を決定しました。「かんてんぱぱガーデン」に行くには、塩尻北 IC から高速に乗り、小黒川サービス IC で降り、小黒橋南交差点で伊那西部広域農道に出て、インターから 6km 程度走れば到着する、伊那西部広域農道は、伊北インターから始まり伊那インター横を通り、飯島町の与田切川を渡り県道 15 号との交点までの長い広域農道となっている。（下写真：かんてんぱぱ「野草園」）

夜は、量的にも質的にも、今まで以上に気を付けることとして、朝食をダイエット食がないか、探しに安曇野にある「かんてんぱぱショップ」に行って見ることにしました。自宅から県道 25 号線に出て、国道 153 号に波田小学校前交差点入り、三溝新田交差点（県道 315 号の始点）を左折し県道 315 号線を野沢の交差点まで走り、左折し安曇野市の市道を走りると、長尾北交差点からは県道 321 号線になり、そのまま直進して進むと、目指す「かんてんぱぱショップ」に到着した。雨降りで客は、私達だけでしたが、店内をぐるぐるしてインスタント的なものを私は探していましたが、女房がごはんの量を減らすアイテムを探してくれました。「ごはんに寒天」これを 1 袋米に混ぜて炊く、結果これをつかい朝の米の量を減らす作戦に落ち着いた。（ごはんの味もかわらなかった）

県道 315 号線は、野沢交差点から旧三郷村（現安曇野市）の**温**から**明盛**に入り大糸線（鉄道）踏切を渡り、明盛と**豊科高家**(たきべ)の境を旧国道 147 号（現県道 316 号）線の立石交差点に出る（県道 315 号線走破）。

旧梓川村（現松本市）と旧三郷村を走っている県道を紹介する。

【県道 319 号（小倉梓橋停車場線）】県道 25 号線の交点、小倉北交差点を西に 600m 程に進むと県道 495 号線に切り替わる。県道 495 号線は、三郷スカイラインとして重複しているが、途中（標高 1200m 付近）から分岐し北に向かう（通行できそうもなかった）。**小倉地区**には、独特の正月飾りのある地区（道祖神御柱立て祭り・元旦の早朝、地区内の 3 か所に立てられる）。小倉北交差点

から東に大糸線梓橋駅を目指す。扇状地を下る道で、高低差 100m を直線で 6km 程を下っていくが、ゆるやかな下りなので、ほとんど平地を走る感じ（車走行のせいか？）でした。一日市場南交差点手前 250m は県道 315 号線と重複していてかつ家が多い部分であった。そこから梓橋駅目指す、大糸線のガード下を通るとすぐ**梓橋駅**に到達した、又大糸線手前左に、新しいガード下を通る道が真々部交差点まで延長されている（県道 319 号走破）。

【県道 320 号線（倭北松本停車場線）】2021.12.21 県道 320 号・321 号の走破を兼ねて、コロナ対策で分散初詣として、12 月に穂高神社に初詣に行きました。自宅から**北松本駅**に行き、県道 320 号線を走り始めました。北松本駅は、大糸線と篠ノ井線線が通っているが、大糸線のみの駅のようだ。両線とも、いまだに単線で北松本駅から 800m 先で分かれている。国道 19 号線を過ぎると、田川と奈良井川の橋を続けて渡り、**島立地区**に入る。市街地が高速道路下まであり、松本合同庁舎付近、には旧堀米集落があり、松本藩の木材の集積場があった所の

ようだ。また松本ICの近くには、日本浮世絵博物館（昔一度行った）がある。高速道路の下を通ると、**島内地区**に入る、島内地区の市街地を外れており、田畑が主体の道が終点まで続く、途中車を止めて食べる所として、鮎亭があり、料理・店内民家風・薪ストーブが記憶にある。自宅に薪ストーブを追加するとき、隣の「世界の薪ストーブ展示設計施工」の看板がある薪ストーブ屋さんに行って参考にした。梓川を渡り、**梓川倭**に入り県道48・278号との交点である氷室西交差点についた（県道320号線走破）。

【県道 321 号線（中堀ー日市場停車場線）】氷室西交差点を直進して、市道を通り、野沢交差点から県道315号線を通り、**一日市場駅**に行きました。一日市場駅（県道321号起点・終点）を出発し、長尾北交差点までは、旧三郷村の中心地を走る。中学校・旧役場・体育館・テニスコートなどがあり、テニスをしに何度か行った事がある場所だ。長尾北交差点から、北に進むと、食べる所が数か所あり、その後ＨＡＭＡフラワーパークとかんてんぱぱショップとつづき、さらに北にお菓子の開運堂の工場直売がある。これらの店は田んぼの道にポツンと現れるイメージである。さらに北に行き住吉交差点（セブンイレブンが角にある）を右折し東に800m程（県道314号線との重複）進み、田んぼの中の交差点を左折し再び北上し1.5km程走り県道57号線との交点である**中堀（堀金烏川）**交差点に到達した（県道321号線走破）。57号線を東に進み国道147号線に出て、北上して穂高神社に行き、初詣をして縁起物の「破魔矢」を購入して帰りました。

【県道 278 号線（大野田梓橋停車場線）】自宅から県道25号線に出て、国道158号を越え、梓川を渡り県道278号線との交点に出る。左折し西に進む、2km強は、一段目の狭い河岸段丘上を進み、上には2段目の河岸段丘があり、比較的広い耕作地と集落がある。その後は1段目の段丘のみになり、**花見集落・八景山集落**を過ぎた所で通行止めになってしまい県道25号線との交点まで戻ってきました。かなり昔、この道を走った事があった。当時は上高地からのタクシーの抜け道に使われていた。ここの通行止め、かなり前からで復旧しないと思っていましたが、どうも新たに2013年から通行止めになっている。昔通行できた時から災害で通行止めになっていたのが一時通れるようになったと言うこと？そのあと、また災害通行止めに？。

県道25号線交点から梓橋駅方面に向かう、県道25号線とは、立田（りゅうだ）上手町交差点まで重複して走り、上立田集落を通り、旧梓川村役場の横を通り県道315号線と交わりしばらく重複する。梓川中学校の砂入り人工芝のテニスコートをみながら倭交差点まで進み、ここで県道48号線と終点近くまで重複して走る。

氷室西交差点は、県道320号の交点でもある。この角に「丸山菓子舗」があり、孫の誕生ケーキを良くここで買って、千曲市の孫の家に届けた、ケーキ屋（和菓子も有り）さん。ケーキ工房の前には洋酒瓶がづらりと並んでいたのが印象深かった。しばらく走ると梓川の土手に出て、踏切を渡り、梓橋西交差点を左折、80m先の梓橋駅交差点を左折し100mで**梓橋駅**に着いた（県道278号線走破）。

歳時記ホームはこちら http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm

清水高原(きよみずこうげん)歳時記（長野県道完走編）　　NO　道８１

≪長野県山形村≫(やまがたむら)　　2024.6.4

南アルプススーパー林道探索（山梨県側から開始）

澤田　繁　著

2024.6.4 白根インターから「さくらんぼ」を求めて山梨県道 39 号線を東に行きました。1.2km 先にある「ひしけい農園」に車を止めて、収穫時期がわからないので、「さくらんぼ」あるのか聞いたところ、今年は予約制（佐藤錦）との事と 5 日前から営業しているとの事を聞きました。なにかあるか聞いて、豊錦か高砂（種類を聞いて買ったのだが、忘れてしまいました）のサクランボを売ってもらいました。

山梨県道 39 号線を西に進み、県道 42 号線との交点の在家塚交差点を右折し県道 42 号線を 300m 先の交差点（桃源文化会館入口）を左折した。ここで、目的地である「芦安・広河原」の案内を発見した。案内を見ながら西に進み、山に突き当たり山際の道路を北上し、塩沢入口交差点を左折し山梨県道 20 号線を谷の奥の芦安方面に向かう。川沿いの道を上流に向かって進むと、対岸に芦安小学校が見える場所に来た。このあたりが旧芦安村の中心地のようだ。県道 20 号線の終点の「にしかわらばし」から「南アルプススーパー林道」が始まる。

橋を渡ると車の通行状態を示す看板があり、今日の状態は、

現在地⇒山の神
　通行できます
山の神⇒夜叉神峠
　通行できます
夜叉神峠⇒広河原
　冬季閉鎖のため
　通行できません
広河原⇒北沢峠
　通年
　通行できません

「南アルプススーパー林道」は、1980 年開通した赤石山脈を横切る道路で、山梨県芦安村（現南アルプス市）から長野県長谷村（現伊那市）までの区間で、「北岳」「甲斐駒ヶ岳」「仙丈ヶ岳」への登山する人のアクセル道路として便利であるようだ。現在この名称はところどころ残っているが、山梨県側は「山梨県営南アルプス林道」・長野県側は「伊那市営林道南アルプス線」の名称になっている。

マイカーで通過できない事は知っていたので、どんな方法で山梨県から長野県にいけるか探索に行きました。にしかわら橋から約1km行ったところに案内図（右図は 1 部拡大し山名等書き込みました）の所で車を止めて、バス乗り場を探しました。芦安には駐車場が多くあり、バス乗り場（左写真）にたどり着きました。広河原までは山梨交通路線バスが運行している。期間（6月21日～）があり、平日４本で休日＋3 本になる。58 分で広河原に着く、運賃は￥１４５０と利用者協力金として￥３００が必要となる。出発時間は、5:15、10:00、11:00、13:00であった。芦安駐車場のバス乗り場から、まだ上に車でいけそうなので、行ってみました。山の神ゲートは開いていました。道幅は、2 車線はなくカーブも多く、久しぶりに警笛ならせの道路標識を多く見ました。バスの時間表で 17 分かかる夜叉神ヒュッテに着き、その先は通行止め（写真左）になっていました。ヒュッテの前の道路横は、車の駐車場になっている。平日ならここまでマイカーで来て、ここからバスに乗る事も出来そうだ。

広河原から北沢峠までは、南アルプス市営バスが走っていて・・。2024 年は土砂崩れのため通行止めとある。歩かない私は、開通を待つしかない状態だと分かりました。2023 年・2022 年も同様な事が分かりました。2019 年のバス時刻表を探しました。平日は、8:00、10:30、12:30、14:30 の 4 本で所要時間は 25 分で￥７５０とある。

登山道の入口は、夜叉神ヒュッテの横に「夜叉神峠登山口」が、山はよくわかりませんが、夜叉神峠小屋までは登りで、尾根を縦走し「鳳凰三山（地蔵岳・観音岳・薬師岳）」への登山道がある。広河原のバス停からは、北岳（3193m）への登山道があり、バス停⇒白根御池小屋（登り 3:10）⇒小太郎尾根分岐（登り 3:00）⇒北岳（1:10）の登山道である。甲斐駒ヶ岳への登山道も、平河原バス停からバス道を 20 分歩くと、「平河原峠入口の登山口」があり、峠までは登り道で、後は尾根の縦走路で甲斐駒ヶ岳まで行ける。峠入口⇒平河原峠（登り 3:30）⇒早川尾根小屋（0:40）⇒アサヨ峰（3:00）⇒栗沢山（1:00）⇒仙水峠（1:00）⇒駒津峰（1:30）⇒甲斐駒ヶ岳（1:30）のルートがあった。南アルプスは、結構時間がかかるルートが、おおそうだが、それが魅力になっている登山家もいるはずです。

＜この南アルプススーパー林道、長くなったので、山梨県版と長野県版に分ける事にしました＞

清水高原(きよみずこうげん)歳時記（長野県道完走編）　　NO　道８２

≪長野県山形村≫(やまがたむら)　2024.6.4

南アルプススーパー林道探索（長野県側から開始）

澤田　繁　著

（長野県道 212 号走破）

2021.11.30 伊北インターから国道 153 号線（塩尻市⇒名古屋市東区）を南下し、伊那バイパスを進み、国道 361 号線（高遠⇒高山市）を通り、高遠に着いた。国道 152 号線（上田市⇒浜松市）を南下し旧長谷村に向かう。旧長谷村に入り、美和ダムを眺めながらダム湖横を通る。ここの 152 号線に沿って中央構造線がはしっていて、露頭がみられる「溝口露頭」に車を止めて前に見学した場所がある。この日は、この近くから国道152号線を外れ、山の方に向かい、「熱田神社」に参詣した。＜熱田神社：遠い昔の先祖たちが日本武尊を信仰し、尾張の国熱田神社の形影（三方三っ辻）をお迎えし、産土神として祀ったのが当社のはじまりである。現在の本殿は宝暦十二年（一七六二）溝口村百数十戸の氏子が三〇〇両という大金を出しあって建築したものである。この建築には宮大工であった当溝口村高見善八は棟梁となり、多くの職人とともに精魂こめて仕上げたもので、規模といい造作といい、近隣に比類ない豪華なものである。**特に彫刻部**は上州（現群馬県）勢多郡の関口文治郎、彩色は武州（現埼玉県）熊谷在の森田清吉である。竜・象・唐獅子・花鳥などの彫刻は実に巧妙華麗で見あきることがない。それで名声が響きわたり「伊那日光」と呼ばれるようになった。＞神殿の後ろに回り、下をのぞき込むと、りっぱな彫刻を見ることが出来ました。

熱田神社を出て、国道 152 号線と並行して山手の方を走る道を南下し、長谷黒河内地区を通り国道 152 号線交点近くの戸台口バス停に出た。国道 152 号線は南に「スーパー林道」は、ここから東に向かう。黒川に沿って、1.5km 程行くと「仙流荘」が見えて来て、そこが「戸台パーク」となっていて、北沢峠までのバスが出る所になる。この日は、既に運行が停止区間のためバスの姿はどこにも見られなかった。

2024年のバス案内を探したら、運行が少し早められ、6/8～11/15の期間となって、名称も「南アルプスクィーンライン」と変更された。戸台パーク発が（5:30・6:05・8:05・10:05・12:10・14:20）で運転日注意だが、乗れそうな本数である。

車を止めて、バスに乗って北沢峠に行くには、戸台パーク横の南アルプス林道バス利用者駐車場（2022年から有

料）に車を止め、戸台パーク（標高 860m）からバスに乗り北沢峠バス停で降りる、北沢峠まではバス料金￥２３００、55 分で到着する。マイカー規制は、戸台大橋からのようです。戸台大橋を渡らずそのまま行く

と入笠山まで林道があるようだが、入笠山までは車ではいけないようだ。

北沢峠から広河原までの路線再開までは、戸台パークに引き返すしかないが、登山をする人には、甲斐駒ヶ岳と仙丈ケ岳への登山口として、重宝されているようだ。参考までにルートを紹介します。**甲斐駒ヶ岳ルート**、北沢峠（標高 2032m）⇒双児山（2649m）（1:30）⇒駒津峰（2740m）（1:00）⇒甲斐駒ヶ岳（2967m）（1:30）。**仙丈ケ岳ルート（**他ルートも有り）、北沢峠⇒二合目（1:00）⇒五合目（1:00）⇒小仙丈ヶ岳（標高 2864m）（1:00）⇒仙丈ヶ岳（3033m）（1:00）

この日は、戸台パークから国道 152 号線まで戻り、5ｋｍ程南下し、県道 212 号線（杉島市野瀬線）に入りました。市野瀬地区から杉島地区までの三峰川（みぶがわ）の右岸を走った（県道 212 号線走破）。三峰川は、仙丈ヶ岳を水源とする天竜川最大の支流で、ダム（美和ダム等）などの用途に多く利用されている川である。帰りに県内のテレビニュースで見たことがある「ドーナツ万十」の奥原菓子店に寄り、ドーナツ万十を買い食べた。再び国道 152 号線に出て、さらに南下し「分杭峠」方面に向かい、分杭峠手前の県道 49 号線に入り、駒ケ根市中沢地区を通り、駒ケ根インターから帰宅の途に着いた。

【付録】

分杭峠（ぶんくい）（ゼロ磁場）：日本最大、最長の巨大断層地帯である中央構造線の真上にあり、２つの地層がぶつかり合っているという理由から、エネルギーが凝縮しているゼロ磁場のパワースポットと呼ばれている。最初にパワースポットとされたのは林道の下にある柱の木付近で、その後林道の奥の水場にも人が集まるようになった。2009 年にはテレビ・ラジオや雑誌で分杭峠のゼロ磁場が大きく取り上げられ、分杭峠に来る観光客が急増した。当然ながら、こうした考えは科学的な根拠を欠いており、疑似科学の一つと見なされている。

清水高原(きよみずこうげん)歳時記（長野県道完走編）　　NO　道８３

≪長野県山形村≫(やまがたむら)　　2024.6.11

杖突峠から入笠山ふもとまで寄り道し高遠ローズガーデンに

澤田　繁　著

（長野県道 211 号走破）（長野県道 490 号走破）

2024.6.11 諏訪インターから茅野方面に向かい、新井の信号を右折し国道 152 号線に入り、杖突峠に向かいました。麓（標高 780m）から峠（1240m）まで一気に登る。杖突峠からは、前から気になっていた入笠山までの尾根道があり、県道ではないが走って見ました。千代田湖までは、ゴルフ場の横を、時々プレーしている人を見ながら、比較的アップダウンの少ない（標高 1350 近辺）尾根道を進んだ。千代田湖から金沢峠を経て芝平峠まで尾根道はつづく、道は狭く車のすれ違いには苦労する。（2 台すれ違っただけだが)、道は、ところどころ、かまぼこ状態のため、車の下面をこすらない走行を必要とする。尾根を走りながら徐々に高度を上げ、芝平峠では 1450m になり、市道入笠線になる。市道入笠線は、県道 221 号線のつづきから芝平峠を経て入笠牧場を通り、市道黒河内線の交点までの路線となる。徐々に高度もあがりながら、尾根道らしく景色も良くなっていく、★印のところの道路には、牧場に入るための消毒が出来る場所（鉄板ですきまを作ってある）を通り、**貴婦人の丘**が見える場所（標高 1720m）まで来た。**ヒュッテ入笠**の横まできましたが、やっていそうだが、そのまま進むと下りになり、100m 程行った所に、警備のおじさんがいて、ここからは 3 時から通れるといわれました。着いたのが 2

時頃だったので、引き返す事にしました。おじさんに高遠までの路線を聞いた、県道 490 号に出る道を進めてくれた。またここは入笠山の登山口でもあり人が降りてきていた、登れば山頂までは 30 分とのこと。(写真は、引き返してすぐに、入笠山を左上に配置、牧場に入るゲート（★）があり、鉄板の隙間が道路に見える場所)。

引き返す途中に、蓮華つつじが多く咲いている場所に車を止めて写真撮影をした。ここが池の平湿原だったようだ。芝平峠に戻ってきた、ここから県道 211 号線に行けるが、おじさんも勧めなかった理由が看板に書いてあった。概要は、未舗装部分があり通りづらい（通れないとは書いてなかった）主旨の事だった。

千代田湖まで戻り、そこから県道 490 号を目指す。千代田湖から流れる松倉川に沿っての道でカーブは少なかった。3km 程で県道 490 号線と交わった。県道 490 号線（中山松倉線）は、2022.12.5 に国道 152 号線との交点（松倉）から国立信州高遠青少年自然の家（中山）まで走った県道である。県道 490 号線を続けて川に沿って下り、県道 152 号線に出た（県道 490 号走破)。

国道 152 号線を南下し、左に長藤郵便局を見つけさらに南下した。関屋橋バス停の三差路に来た、標識があり、⇦入笠山・⇦板山露頭(中央構造線)となっていた。2021.5.24 県道 211 号線を走破した後、小豆坂トンネルを通り、ここに出た事を思いだした。

2021.5.24 伊那インターから伊那方面を走り、県道 211 号走破のため、高遠城跡近くまで来た。県道 211 号（芝平高遠線）の始点は、高遠大橋の北すぐの信号の無い三差路です。ここから三峰川の右岸を走っていて、高遠ダムの高遠湖の横を通り、ダム湖が終わる所で、国道 152 号線と交わり、１．４ｋｍ程重複し、「道の駅南アルプスむら長谷」手前 200m から分岐した県道 211 号線を走る。

旧長谷村の北側の非持地区を走る。たんぼを横に見る 2 車線の緩やかな登りの道を行く、非持地区を抜けると、昭和 31 年まで三義村だった地区に入る。

山室地区に入り、山腹の道を走ると又開けた、山室の集落に出た。ここにある、構（かまえ）のりっぱな「遠照寺」に車を止めて、ボタンの花を見に行きました。この寺の前の案内には、寺内に「亀島庭園」の枯山水の庭が古くからある事が書いてあった。

「遠照寺」先から、道幅が狭くなりました（ところどころ道幅広がった所あり）。その先山麓地帯を少し走ると、国道 152 号線に抜ける三差路に着く、帰りはこちらからと決め先に進む、この三差路の先が旧三義村の荊口地区になる。谷も狭くなり人家も少なくなり、川岸を走ったり、少し川から離れたりして進み、目的の旧三義村芝平に入った。道は川を下にして山麓を走る。道が川岸になった所に集落（芝平の里）があった。「入笠山」のパンフレットによればこの辺りから、室町時代から日蓮宗の布教のための「法華道」が入笠山横を抜け富士見まで通っていたとある。この集落を抜けると、道は川岸から離れて走り、川岸に戻った所に最後（？）の集落があった。さらに道は川沿いの山麓を走り舗装が切れた。この辺りが県道の終点だと思われるが、砂利道をさらに 500m 程進んで引き返しました（県道 211 号線走破）。帰りは途中から右折し、「小豆沢トンネル」を通り、国道 152 号線に出て、高遠城跡に戻り、伊那から伊北インターまで行き、帰宅した。

2024.6.11 関屋橋バス停の三差路から、高遠方面に緩やかな下りの道がつづき、高遠の町中に着いた。国道 152 号線を少し外れた所の「千登勢菓子店」の前のスーパーで休憩した。菓子店は、高遠に来た時は必ず寄る所で、「高遠まんじゅう」はよく買って帰る。今回はダイエット中なので、店を眺めるだけでした。

国道 152 号線を戻り、ループ橋のある道に入り、城の方に登って行く途中に、バラ園の案内を見つけ左折した。500m 程行ったところに、車を誘導する人がいて、入場料金（￥５００）を払うところに近い駐車場に止める事が出来た。「高遠しんわの丘ローズガーデン」は、バラの種類 270 種・本数約 3000 本で、入場料を払う入口が、丘の上（頂点）で、下に向かって降りての見学となっている。歩くのが苦手の我々は、半分まで行ったところで終了しました。途中カート乗り場があったのだが、到着時間が運転終了時間を越えていたので仕方ない事にした。咲き誇るバ

ラと絶景のアルプスも売りだが、この日は中央アルプスが雲に覆われていてバラのみの風景でした。写真は、ガーデンから高遠市街を眺めた時のものです。

この日は、高遠から三峰川の左岸を通り、天竜川にかかる春近大橋を渡り、かんてんぱぱガーデンに寄り、小黒川スマートインターから帰宅した。

【付録】バラの種類

（しんわの丘パンフから）

・チェリーポニカ
・レヨンドゥソレイウュ
・アライブ
・アンジェラ
・ホーム＆ガーデン
・アスピリンローズ
・ノスタルジー
・ゴールデンボーダー
・アンネのバラ
・カリフォルニア
　　ドリーミング
・ノバーリス

http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm 歳時記ホームはこちら

清水高原(きよみずこうげん)歳時記（長野県道完走編）　NO　道８４

≪長野県山形村≫(やまがたむら)　2024.6.25

開田高原の木曽馬の里

澤田　繁　著

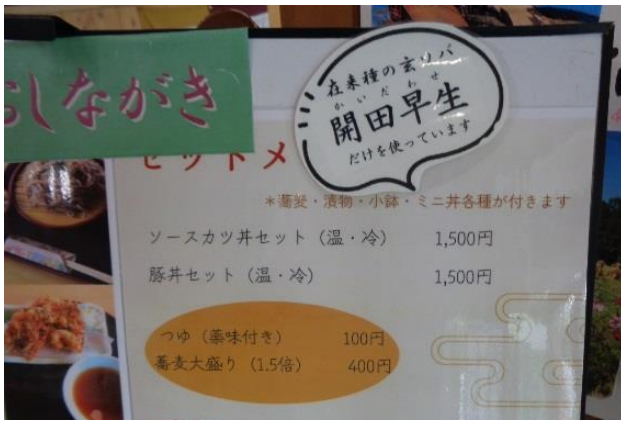
（長野県道 20 号走破）

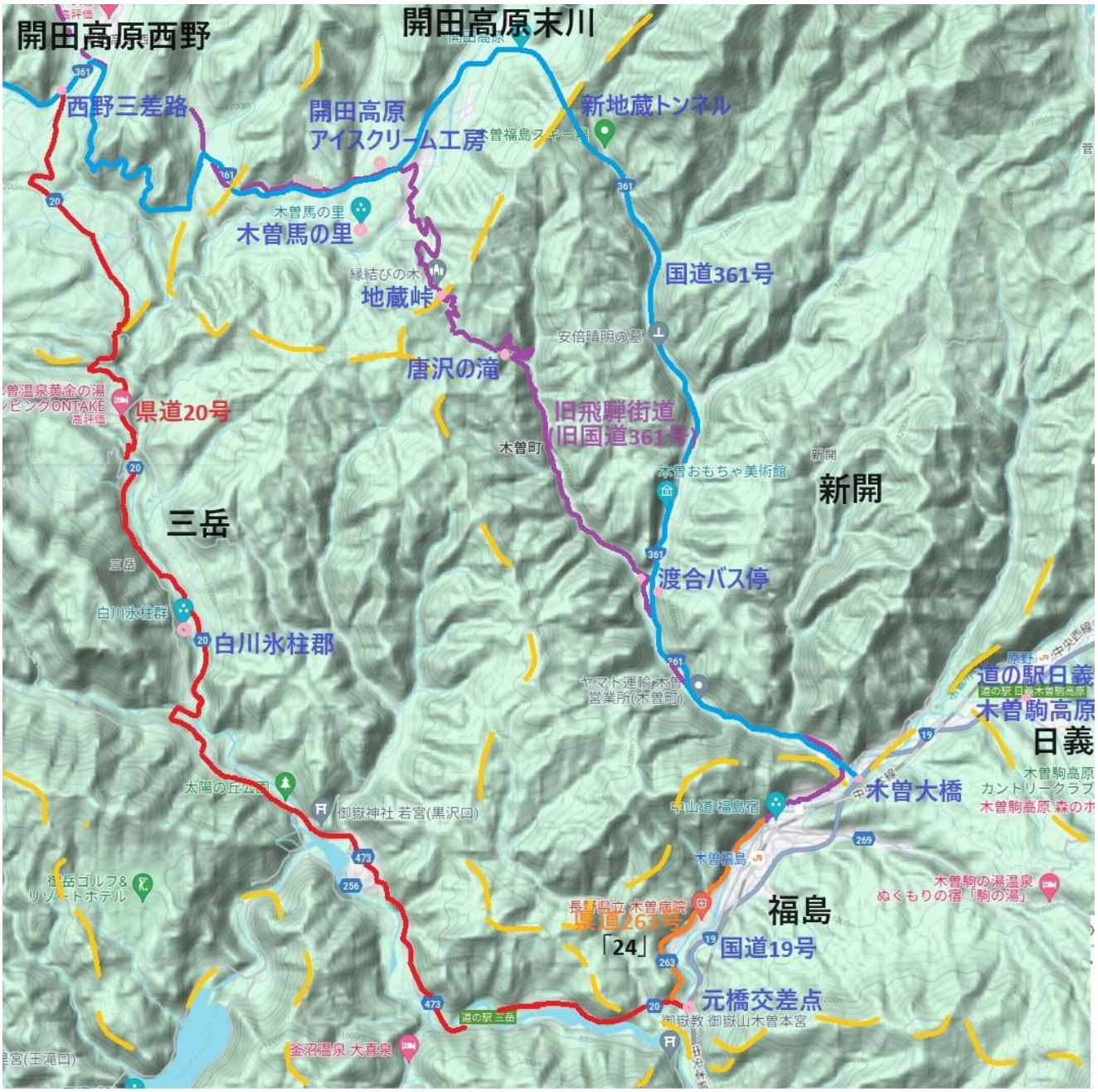
2024.6.25 洗馬宿を通り、牧野信号で国道 19 号線に出た。「道の駅日義木曽駒高原」で休憩し、売店で「ほうば巻き」を買い、食堂にある電子レンジで温め、車に戻り食べました。写真は 3 つつながっているが、ほうばの葉は 8 つつながっている。8 つは食べるには多いので、数少ない 3 ツを探して買いました。＜ほうば巻き・説明書＞がついていました。昔から木曽地方で月遅れの端午の節句を祝う菓子として作られてきたほうば巻き・木曽駒旬彩工房ほうば巻きは、手作りのあんこを木曽産の寒ざらし粉を練ったもので包み朴の葉で包み蒸しあげています。と書いてある。なるほど。

道の駅日義木曽駒高原は、旧日義村にあり 2005 年に日義村・開田村・三岳村と木曽福島町が合併し木曽町となった。木曽福島町は、1967 年（昭和 42 年）に福島町と新開村が合併し出来た町である。道の駅を出て国道 361 号線（高遠町高遠公園下交差点―高山市松之木町中交差点）と国道 19 号線の重複区間を走り、分岐点である木曽大橋交差点の手前 400m の矢崎橋交差点を右折し、木曽川にかかる矢崎橋を渡って対岸を通り、国道 361 号線に出た。木曽大橋は 1994 年（平成 6 年）に開通した橋で、国道 361 号線は木曽福島の町中を迂回していた。

国道 361 号線に出たあと、開田方面に向かう、新地蔵トンネル（1645m）が開通したのが、1987 年（昭和 62 年）と、私が 38 歳ころの時代である。開田高原には、若いころテニスの大会に行ったのが最初のような気がする。当然地蔵峠越えでした。トンネルを抜けて開田高原に入る。最初にめざしたのが、アイスクリーム屋さんでした。前に国道 361 号線を通った時に国道沿いの記憶があったので、国道を走っていたら、右側に見つけました。車を止めて店の方を見たら定休日でした。スンキヨーグルトに興味あったので、スンキ漬けは苦手であるが、味見して見たかったが残念。＜説明によると＞開発に 3 年、そして商品化までに 6 年。木曽の伝統食「すんき漬」の植物性乳酸菌を使った日本初のスンキヨーグルトが誕生しました。スンキ菌が腸の奥まで届き、お通じも抜群に！ヨーグルトで美味しく健やかに。

第２の目的の「木曽馬」を見に行く事にしました。70m 程戻り右折し道なりに行くと、牧場ぽくなり、ブルーベリー畑もあり開放的な道を進むと、柵に木曽馬を発見しました。ここが「木曽馬の里」でした。木曽馬の足はもっと短いと思っていましたが、意外と長く「木曽義仲」軍団も乗って遠征したとなると、私の農耕馬だけの用途と言った、思い込みだけでの想像でした。馬を見ることができたので、写真を撮って帰途に着きました。途中「木曽馬の里おみやげ食事センター」によって、そば（在来種の玄ソバ・開田早生）を食べて休憩しました。





帰りは、若い頃通った旧国道 361 号線を走りました。カーブが多くなかなか開田高原に着かないイメージだけが残っていましたが、それに加えて高低差も感じました。開田高原の開田小学校が標高 1020m でそこから地蔵峠（1340m）に向かい、そこから下りになる。木曽福島の中心地の標高は 800m 弱なのでかなり下る事になる。この旧国道 361 号線に沿って「西野飛騨街道」が走っていた。峠付近の山道にはところどころ「旧

飛騨街道」の標識がある。道路道よりは険しい道が「飛騨街道」のようだ。地蔵峠からの下り途中には、「唐沢の滝」があり、車を降りてしばし見上げた。案内には＜正面に見える滝が「唐沢の滝」で、木曽福島から飛騨国高山に通ずる飛騨街道の名勝の一つになっていました。旧道はこの滝の右斜面を登り滝の上に出ました。高さは七十五間（１３５メートル)、四段の滝でしたが道は度々改修され、滝の落下地点もそのため低くなりました。現在の滝の高さは約１００メートルです。明治には、黒川八景に数えられ、また、寝覚ノ床、王滝の氷ケ瀬と共に、木曽三勝といわれました。＞

渡合地区で国道 361 号線接していたので、そこからは国道 361 号線を木曽大橋まで走り、国道 19 号線で帰宅した。

木曽町の開田地区・三岳地区を走る県道20号線を紹介する。2020.11.3 洗馬から牧野交差点から国道 19 号線に入り、日義・福島を通り元橋交差点から県道20号線（開田三岳福島線）に入る。木曽川を渡り、最初のトンネルを抜けると、三岳地区に入る。王滝川のダム湖を横に進むと、王滝川を渡った所に「道の駅三岳」があり、農産物を買ったりする。県道 20 号線は県道 473 号と合流し、王滝川を渡る。しばらく 473 号線と重複して、三岳小学校のある三岳の中心地を通る。ここから県道 256 号線が王滝川とともに王滝村に向かっているが、県道 20 号線は支線の白川に沿って登っていく、白川と西野川に分岐するところで、県道 473 号線と分岐し、県道 20 号は西野川に沿って緩やかに御岳の山麓を登る。高原のいろいろな施設や店舗はちょこちょこあるが、シーズン（来たことがないが）以外はあまりはやっていないように見える（のどかだ)。三岳と開田の境地点は標高 1080m であり、ここから岐阜に向かう長峰峠（1380m）まで登っていく、県道 20 号線と国道 361 号線の交点は標高 1180m の西野地区にある三差路となっていて県道 20 号線終点（県道 20 号線走破）となる。この日は岐阜県に行き、野麦峠を通り、奈川度ダムに出て国道 158 号線で波田小学校前まで来て帰宅した。

2021.1.14 県道20号で気になっていた、「白川氷柱群」を見に行きました。木曽大橋から国道 361 号線で開田高原まで行き、県道 20 号線を三岳方面に向かいました。その年や時期によって規模が違うようですが、その日ようやく到着して、眺めて見ましたが初めて見たので満足して帰りました。

歳時記ホームはこちら

http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm